

おいしい宝物に笑顔

西区のさしおうぎ幼稚園

園児がサツマイモ掘り

「いっぱい取れたー!」「おわーい」。宝物を見つけたような歓声が、次々と飛び交った。さいたま市西区のさしおうぎ幼稚園(湯沢寛園長)が区内の専用農園で3日間かけてサツマイモ掘りをした。約3000人の園児が、泥だらけになって収穫。サツマイモは園児が持ち帰り、園庭で焼き芋パーティーを開いて「食欲の秋」を楽しんだ。

(松沢明美)

同幼稚園は農業を営んでいた理事長の湯沢徳子さんと義父の源次さん、夫の源光さんが1973年に開園した。理事長職は源次さんが初代、源光さんが2代目、徳子さんが3代目。農家だったこともあり、早くから当時は珍しかった食育をスタートさせた。今も徳子さんが畑を耕

し、男性職員も手伝って専用農園で野菜を栽培している。野菜はサツマイモだけではなく、キャベツやタマネギ、ジャガイモ、ダイコン、キュウリ、ホウレンソウなど、豊富な種類を栽培。収穫したものは園児の八百屋さんごっこに使い、各家庭に配布。月1回は保護者が調理



①夢中になってサツマイモを掘る園児たち②さいたま市西区のさしおうぎ幼稚園専用農園③収穫したサツマイモを火に投じる園児たち

し、園児の誕生日会で食べるイベントなどにも使用している。恒例のサツマイモ掘りは、今年も大盛況。丸々したサツマイモを掘り当てた園児は笑顔いっぱい。なかなか引き抜けずに苦戦する園児がいれば、周りの園児が自然と助ける姿もあった。「ここにやるかもしれない」と協力してサツマイモを掘り当て、力を合わせて収穫。サツマイモだけではなく、虫を見つけての園児も。一味違う体験に、園児の明るい声が絶えなかった。

10月の誕生日会を兼ねた焼き芋パーティーも、人気イベントの一つ。事前にふかしておいた芋をアルミホイルにくるみ、園児は「おいしいお芋になれ」の掛け声で火の中に投入。焼けた後は熱々の芋を頬張った。年長組の築山玲音ちゃん(6)は、「お芋掘りも楽しかった。大きいのを2個取った」とうれしそう。母親の朋子さん(41)は、兄で小学校6年生の啓人君(12)も同園を卒業したといい、「手作りの食事を食べさせてくれたり、焼き芋のような昔ながらのことを教えてくれるので、子どもたちにとっていいと思う」と笑顔を見せた。